

義勇隊の碑

〔地図番号3〕

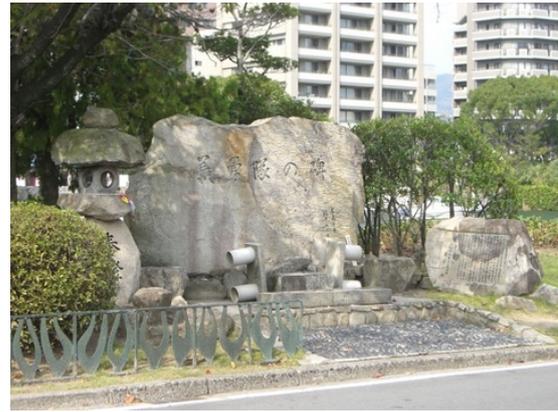
建立年月日

1964（昭和39）年8月6日

建立者

安佐郡佐東町川内^{ぬくい}温井遺族一同

設計者



形状

自然石でできた碑石の、正面に「義勇隊の碑」、裏面に犠牲者の氏名が刻まれている。

建立の目的

被爆の惨状と義勇隊員の尊い犠牲を語り継ぐとともに、平和の尊さを訴える。

碑文（碑陰）

「謹みて義勇隊員の霊にささぐ 我等はみな忘れまじ 悲しみて余りある惨状の日を そは昭和二十年八月六日午前八時十五分なり 原爆この地に投下され阿鼻叫喚の巷の中で 苦悶のはてに 吾がはらからは いまここに眠る・・・」

特記事項

1 国民義勇隊

1945（昭和20）年、政府は本土決戦にそなえ、「義勇兵役法」を制定しました。全国各地で職場・学校・地域を単位として「義勇隊」が編成され、男子は15歳から60歳まで、女子は17歳から40歳までの全国民が編入されました。

2 川内村温井の犠牲者

被爆当時、爆心地から約600m、^{なかしましんまち}中島新町付近で建物疎開作業に従事していた川内村の義勇隊200人は全員が亡くなりました。そのうち温井地区はひとつの地域としては特に多い180人の犠牲者を出しました。

3 残された家族

犠牲となった隊員は、一家の中心的働き手ばかりで、残された老人、子ども、女性は厳しい生活を強いられました。

4 原爆精霊供養塔

西区の三滝墓苑には、村人が「義勇隊の碑」建立までの合同供養のため建てた精霊供養塔があります。

1965（昭和40）年5月、誓願寺の三滝への移転に伴い、現在地へ移されました。